

第 123 回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録	
日時	令和 8 年 8 月 31 日（月） 9:15～10:15
開催場所	金沢区役所 1 階 1 号会議室
出席者 【敬称略】	部会委員）川原部会長、植松委員、小川委員、國廣委員、後藤委員、鳥海委員、 肥後委員、松村委員 事務局）横浜市：光田部長、阪本課長、安藤係長、道明、福田 市民セクターよこはま：加世田、山田 横浜市住宅供給公社：都出、隅、土屋、高橋
開催形態	公開（一部非公開）
議題	（１） 1 次コンテストの振り返りについて （２） 令和 8 年度活動懇談会について
報告	（１） 令和 8 年度整備施設の状況について
決定事項	

議事	
事務局	1 開会挨拶 会議の公開・非公開について、本日の会議は「公開」とする。ただし、コンテストの審査については、公正かつ円滑な議事運営が著しく阻害されると認められる場合「非公開」とする。 了承 2 議題 （１） 1 次コンテストの振り返りについて 「（資料 1－1） 1 次コンテストアンケート結果」「（資料 1－2） 令和 8 年度 1 次コンテスト振り返り」を用いて説明 ポイント整理後のグループからの補足について、ポイント整理で言われた順番通りに一つ一つ丁寧に説明し、時間が足りなくなって中途半端に終わってしまう団体があった。お昼の休憩時間に重要なポイントをグループで整理し、特に説明が必要だと思ったところを中心に補足してもらいたい。団体側からすると補足説明の時間が短いと思う気持ちもわかるが、その後に質疑応答の時間があるため、ポイント整理の時間を増やすのではなく、整理の後に補足して話してもらい、質疑応答の時間を長くとる方が良いと思う。 交流タイムに関して、コーヒーを飲まない人も 2～3 割いると思われる。特に若い世代で苦手な人が多いらしいので、若い世代を取り込みたいのであれば、別の飲み物も検討していただきたい。 川原部会長 ポイント整理で出た質問事項のすべてを答える必要はなく、取捨選択してまとめて話
委員	
事務局	
松村	
川原部会長	

	しても良いということをポイント整理の時の司会である職務代理者の後藤委員から伝えてもらっても良いかもしれない。
植松委員	グループ向けアンケートの結果にある「サービス」という言葉を使用した際にその言葉がタブーであるように感じたのは残念とあるが、1次はあくまで実現性に関しては問わないため、審査員としては実現性について疑問に思っているが、極力その質問を抑えているが、今回についてはグループ側が実現性（収支計画）については十分に考えているとアピールしたいのか、というように感じた。どのような状況だったか教えてほしい。
事務局	空ちゃ別館づくり隊の質疑の際にそのような話になったと記憶している。
鳥海委員	不登校の子どもの受け入れサービスを行う、支援についてサービスという言葉で表現されたので、それはサービスで行うことですか？という質問を確かしたと思う。趣旨も理解はしているし、タブーとは思っていない。
川原部会長	今回応募者数が少なかったのは、広報なのか、分からないがこの事業をもっと知ってもらうために分析していることはあるか。相談は多かったと聞いているが、最終的に応募しなかったのはなぜか。
事務局	相談は多かったものの、ぎりぎりになって場所が見つからない、仲間づくりが未熟で来年にしますということだった。ニーズはあるものの、活動が熟す時間がみんな足りないと思っているのかもしれない。ただ、事務局としては挑戦していただければ、伴走支援も一生懸命やりますし、1次から2次に向けての間に活動の熟度を上げるということもできますと話はしたけれど、気持ちを盛り上げることができなかった。
川原部会長	締め切り直前に応募するのはなぜか。区役所の担当は制度を知っているのか。
事務局	知ってはいるが、まち普請の大変さを知っているので薦めにくいと言われる。
鳥海委員	今年度は提案を出せなくなってしまったというグループが拠点に見学に来てくださったが、時間がありすぎて考える時間がいっぱいあるがゆえに怖くなったと聞いた。その気持ちはすごく共感でき、自分たちはぎりぎり参加組だが、ある種の勢いは必要だと思う。あまり考えないでやりたいものはやったらよいとアドバイスしたが、過去の整備団体をみると、前々から計画していた人より締め切りギリギリでも勢いで進めた団体も多いと思う。
國廣委員	事例を見学に行くような企画はあるのか。
事務局	3月にバスツアーを開催している。
國廣委員	3月の時期をもう少し後ろにし、募集締め切りの直前にすることも考えられる。どこまで何ができるのかということがイメージできないとエントリーしづらいと思う。似たような立場の人がどんな具体的なことができているのかを知ると、やってみようとなれるかなと思う。バスツアーでなくても、1か所訪れるのでも良いと思う。
肥後委員	整備団体からつながることもあると思う。身近に提案している団体もいるし、水面下

	ではみんな何かやっていきたいと思っているところがあるため、そこをうまく拾い上げられるとよい。
事務局	最後に躊躇してしまうことが悩みで、結局来年やりますと言っていたグループに、コンテストの案内や、今回の施設見学の案内を送っても、来てくれないのが現状。
松村委員	躊躇するのはまともだと思う。拠点を作った後に運営していくとなると、その人の人生そのものが変わっていく可能性があり、勢いで簡単に決めて良いとは思わない。しかも、5年間継続するのはかなり大変な話になる。1次（コンテスト）から2次までの半年の間に運営について考えるためには、その前の助走期間が重要である。 クラウドファンディングのような形で自分たちでお金を集めることも普通になってきているため、今までの制度とは異なり、トライアルのような形で、審査は少しゆるく、コンテスト形式ではないものもあるとよい。それらを含めて、まち普請のブランドをどうやって作っていくのか。目玉となる3～4つの施設を作っていくほかに、あちこちにまち普請の拠点があるという方が価値が出てくるかもしれない。今後検討していただきたい。
事務局	（2）令和7年度活動懇談会について 「（資料2－1）令和7年度活動懇談会スタッフ資料」「（資料2－2）令和8年度活動懇談会「ステップアップシート」」を用いて説明 ・活動懇談会に欠席する委員はいるか。
委員	全員出席。（松村委員のみ、遅れて参加）
事務局	・ステップアップシートについて、事前に紙で配布を希望される方はいるか。（当日は資料として、紙で配布予定）
委員	なし
川原部会長	まち普請の説明を部会長がすることになっているが、説明内容はこういったものか。今回は応募メンバー以外も参加するのか。
事務局	応募メンバーのみの参加であり、今回の活動懇談会の位置づけを説明していただく。
松村委員	進行の方はどうするのか。硬い雰囲気から始まることが多いので、最初から話しやすい雰囲気を出してほしい。場の作り方に気を配ってほしい。
川原部会長	事前にアドバイザーと打ち合わせの場を設けるのか。
事務局	開会前に打ち合わせの場を設ける予定。話しやすい雰囲気になれるよう善処する。
後藤委員	昨年もお伝えしているが、提案団体からの説明がすごく長いケースがあり、もったいないと感じたため、タイムキープをしっかりとしてほしい。
川原部会長	ベルを鳴らして話を切っても良いと思う。

事務局	提案内容の概要は団体が説明すると長くなりがちなため、市の伴走支援担当者から説明するようにし、なるべく相談の時間を多くとりたいと考えている。自己紹介が長くなることもあるので、事前に提案団体には説明をする。
川原部会長	アドバイザーの方が、グループのことをあまり知らないのではないかと、グループが一生懸命自分たちのことを説明しようとする可能性もある。アドバイザーも提案書などで提案内容は把握していることを提案団体には伝えてほしい。
事務局	2 報告 (1) 令和8年度整備施設の状況について 「(報告資料) 令和8年度整備施設の状況について」を用いて説明 以上
資料 (資料1-1) 1次コンテストアンケート結果 (資料1-2) 令和8年度1次コンテスト振り返り (資料1-3) 令和8年度1次コンテスト投票結果 (資料2-1) 令和8年度活動懇談会スタッフ資料 (資料2-2) 令和8年度活動懇談会「ステップアップシート」 (報告資料) 令和8年度整備施設の状況について	